

6 . アンケート調査結果のまとめ

市民、重点区域居住者、マンション居住者、土地所有者の回答を見てみると、年齢構成、住む動機、お気に入りの場所の有無、中心部活性化への取り組みの意向などについて違いが見られました。

全般的には、一般市民は、中心部への愛着や関心が薄く、中心部に依存しないライフスタイルが確立されつつあることが感じられます。一方、近年中心部に居住したマンション住民や昔からの居住者、及び土地所有者は街への愛着や関心が深く、活性化への期待や意欲が大きいことが感じられます。

今後の活性化の方向としては、魅力的な商業施設や親しみやすい空間を創造するとともに、家賃や地価を安くし、新しく居住しやすくすることや、商売を始めやすくすることが共通した要望となっています。

土地所有者については高齢者が多く、自ら積極的に活性化に向けて行動するという積極的な意見は少なく、とりあえず、現状維持の土地利用や建物利用を望んでいる方が多いことが判りました。

また、市民は家賃や地代が高いことが、中心部に人が住まない大きな理由であると考えており、一方、土地所有者は土地の需要が低迷しているため積極的に土地利用を手控えている状況であり、このように意識がずれている面もあるため、市民と土地所有者が交流して、中心部への居住や活性化を考えていくということが重要なことのひとつと考えられます。

どの調査対象者のグループでも、中心市街地活性化への関心が高く、特に計画づくりに関わりたい、イベント等に参加したい、応援サポーターとして参加したいなどと答えた方が総じて多いことから、今後、これらの意欲をいかに活かして魅力づくりにつなげていくかが大きな課題と言えます。

重点区域内の居住者は、高齢者の割合が高いことから、マンションなどのような新しい宅地や住宅を供給して、若い人、中心部への居住やまちの活性化に関心の高い人、中心市街地に愛着を持っている人を重点区域内に多く呼び込むことが、今後活性化を図るための大きな課題であると言えます。

また、お気に入りの場所も全体としてみると、ぶらくり丁周辺に集中するのではなく、中心市街地全体にわたって分散しています。魅力的な場所、店、施設が分散した理由を考察するとともに、分散を活かす方策を考えることも課題となっています。中でも、どの調査対象者のグループも和歌山城を最大の魅力ある資源と考えており、この文化遺産、シンボル景観が市の魅力形成に果たしていく役割を再認識するとともに、今後、いかに中心部の活性化に関連づけていくかを検討していく必要があります。

その他に一箇所で何でも買える商業施設を要望する人が多いことから、都心居住を進めていくことを前提に、生活を支え、魅力を与える都心型の小さな量販店などの誘致等も今後の課題と言えます。

す。

本調査で様々な居住地域や年代層に分けて、意向を聞いた結果、今後の活性化のための多くの課題やヒントを得られたことから、今後これらを詳細に検討し、計画づくりやまちづくりの推進に活用していく必要があります。

特に中心市街地の土地・建物所有者、居住者、店舗などの経営者、及び利用する市民の4者が交流を図りながら、一体となって今後の活性化を考え、具体的な活動を行うことが重要だと思われます。